

(ア) 健康・生活

ねらい	<ul style="list-style-type: none">・健康状態の維持・改善・生活習慣や生活リズムの形成・基本的生活スキルの獲得・生活におけるマネジメントスキルの育成
支援内容	<p><健康状態の維持・改善></p> <ul style="list-style-type: none">・連絡帳の確認を通して、子どもの心身の健康状態を把握する。・来所時に検温、手洗いを実施する。・定期的な服薬が必要な子どもには、服薬の確認を行い自己管理が行えるよう支援する。 なお事業所内での服薬を希望する際には、服薬の対応に関する薬情を基に同意書へのサインを依頼する。・熱発や体調不良等の訴えがある場合は保護者に連絡し、子どもの状態の説明を行う。・子どもの変化にいち早く気づけるように常に観察を行う。 <p><生活習慣や生活リズムの形成></p> <ul style="list-style-type: none">・利用時に前日の就寝時間、朝の起床時間の確認を行う。保護者と連携し、事業所での様子や自宅での様子等の情報共有を行い、生活リズムの安定を支援する。・室内にスケジュール表を設置し、スケジュールに沿った活動を取り組むことで基本的な生活習慣を身につけられるよう支援する。 <p><基本的生活スキルの獲得></p> <ul style="list-style-type: none">・食事の見守り、排泄補助、衣服の着脱補助等を行い生活に必要な基本的技能の獲得を支援し、身辺自立の向上を図る。・特性や発達段階に合わせて活動の構造化(スケジュール表の設置等)を行い、活動の見通しを立てて主体的に行動できるよう環境設定を行う。 <p><生活におけるマネジメントスキルの育成></p> <ul style="list-style-type: none">・活動の中で自己選択や自己決定をする機会を設け、自分の生活をマネジメントし自立した生活ができるよう支援する。

(イ) 運動・感覚

ねらい	<ul style="list-style-type: none">・姿勢と運動・動作の基本的技能の向上・身体の移動能力の向上・保有する感覚の活動・感覚の補助及び代行手段の活用・感覚の特性への対応
支援内容	<p><姿勢と運動・動作の基本的技能の向上></p> <ul style="list-style-type: none">・日常生活における基本動作及び姿勢保持や上肢、下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防・強化を図る。(ストレッチや体幹トレーニング等)・折り紙やアイロンビーズ等を用意し、手指の巧緻性の向上を図る。・協調動作や複合動作を安定して行えるよう支援する。(なわとびやボール遊び等)・遊びや集団活動を通して身体を動かす機会を提供し、身体能力の向上を図る。 <p><身体の移動能力の向上></p> <ul style="list-style-type: none">・自力での身体移動や歩行など、日常生活に必要な移動能力の向上を支援する。・事業所外での移動や交通機関の利用の機会を提供し、学校への自主登校や買い物などができるように支援する。・屋外での安全な行動ができるように、交通ルール、危険箇所等の確認を行う。 <p><保有する感覚の活用></p> <ul style="list-style-type: none">・ピアノ等の楽器の使用を通して視覚、聴覚、触覚等の感覚を養い感覚統合を図る。・ダンスやラジオ体操に取り組み、五感の活用や身体能力の向上を図る。 <p><感覚の補助及び代行手段の活用></p> <p>障害の状態に応じて、眼鏡や補聴器等の使用を提案し、感覚を十分に活用できるように支援する。</p> <p><感覚の特性への対応></p> <ul style="list-style-type: none">・感覚の過敏や鈍麻などに適切に対応できるよう、パーテーションを設置する等、感覚の特性に合わせて過ごしやすい環境設定を行う。

(ウ) 認知・行動

ねらい	<ul style="list-style-type: none">・認知の特性についての理解と対応・対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得(感覚の活用や認知機能の発達、知覚から行動への認知過程の発達、認知や行動の手掛かりとなる概念の形成)・行動障害への予防及び対応
支援内容	<p><認知の特性についての理解と対応></p> <ul style="list-style-type: none">・活動前に事前の声掛けを行うことで、見通しを立ててスムーズに活動に取り組めるよう支援する。・活動前にスケジュールを立てる時間を設け、子どもが自身で活動の選択や決定ができるように支援する。 <p><対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得></p> <ul style="list-style-type: none">・折り紙や工作活動で物の大きさや色の違い、形の変化等を理解できるよう支援する。・活動の中で、はさみ等の道具の適切な使用方法の習得を支援する。・ピアノ等の楽器の使用を通して音の大きさや音色の変化を感じられるよう支援する。・積み木やパズル等で空間認識力が養えるよう支援する。・遊びや集団生活の中で、時間・場所・人物・自身の置かれている状況の理解ができるように支援する。・時計(秒針時計、デジタル時計両方)を設置し視覚的な把握ができるよう支援する。・カレンダーやホワイトボードを用いて日付や曜日の把握ができるよう環境設定を行う。・帰りの会では司会を担当する子どもに日付や曜日の発表ができる機会を設け、振り返り際には発表者を指名し、名前と顔の認識ができるように支援する。 <p><行動障害への予防及び対応></p> <ul style="list-style-type: none">・一人一人の障害特性に応じて、子どもに合った環境設定、予防策を講ずる。

(工) 言語・コミュニケーション

ねらい	<ul style="list-style-type: none">・コミュニケーションの基礎的能力の向上・言語の受容と表出・形成と活用・人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得・コミュニケーション手段の選択と活用・状況に応じたコミュニケーション・読み書き能力の向上
支援内容	<p><コミュニケーションの基礎的能力の向上></p> <ul style="list-style-type: none">・子どもの特性や発達段階に合わせて、言語によるコミュニケーションやその他適切なコミュニケーションツールを用いて基礎的な能力の向上を図る。 <p><言語の受容と表出・形成と活用></p> <ul style="list-style-type: none">・帰りの会で一日の活動を振り返り感想や気づいた点を話すことで、自身の体験したことを言葉で伝え、相手の話を聞く機会が持てるよう支援する。 <p><人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得></p> <ul style="list-style-type: none">・遊びや集団活動後に振り返りを含めた意見交換を行うことで、その場に適した発言や行動、他者との関わり方を学べるよう支援する。 <p><コミュニケーション手段の選択と活用></p> <ul style="list-style-type: none">・伝言ゲームやジェスチャーゲーム等の遊びを通して、身体を利用した(指差し、身振り、サイン等)表現をする等、言語以外を用いて相手に意思を伝えることができるよう支援する。 <p><状況に応じたコミュニケーション></p> <ul style="list-style-type: none">・遊びや集団活動を通して相手との関係性や場面や状況を的確に把握し、相手に配慮した行動や主体的なコミュニケーションが取れるよう支援する。 <p><読み書き能力の向上></p> <ul style="list-style-type: none">・子どもの発達段階に合わせて文字や数字等の書き取りの練習を職員と一緒に行う。・絵本等の読み聞かせを行い言語発達の向上を図る。

(オ) 人間関係・社会性

ねらい	<ul style="list-style-type: none">・アタッチメント(愛着)の形成と安定・情緒の安定・他者との関わり(人間関係)の形成、遊びを通じた社会性の促進・自己の理解と行動の調整・仲間づくりと集団への参加
支援内容	<p><アタッチメント(愛着)の形成と安定></p> <ul style="list-style-type: none">・子どもの話を傾聴し、人や自分に対して信頼感を育み良好な人間関係を築けるよう支援する。・感情の崩れや不安になった際に児童が自ら相談することができるよう、子どもの味方であるように努める。 <p><情緒の安定></p> <ul style="list-style-type: none">・安定した情緒で過ごすことができるように、定期的に振り返りの機会を設け、自身の性格や特性の理解が深められるように支援する。・不安定時には職員が一对一での面談を行い、気持ちの表出を助け、その後の解決方法が考えられるように支援する。 <p><他者との関わり(人間関係)の形成、遊びを通じた社会性の促進></p> <ul style="list-style-type: none">・活動の中で職員が仲介し、子ども同士のコミュニケーションのきっかけを作り関わりが持てるよう支援する。・集団活動の際にはルールや内容を明確化し、ルールを守って協調遊びができるよう支援する。・学校への自主登校や買い物などができるように、交通機関の利用等の機会を提供する。屋外での安全な行動ができるように、交通ルール、危険箇所等の確認を行う。 <p><自己の理解と行動の調節></p> <ul style="list-style-type: none">・定期的な子どもとの面談等自身を振り返る機会を提供し、自己の行動の特徴を理解することで、自身で対応方法を考え状況に応じた適切な行動ができるよう支援する。 <p><仲間づくりと集団への参加></p> <ul style="list-style-type: none">・協同活動を通して、相互理解を深め仲間づくりにつながるよう支援する。・子どもの特性に合わせ、一人一人の個別性に配慮しながら徐々に小集団から集団活動へ参加できるよう支援する。